

学位論文要旨の掲載にあたって

筑波大学『経済学論集』では、毎年、筑波大学大学院社会科学研究所（現在人文社会科学研究所）において博士（経済学）の学位を取得された方の学位論文要旨を掲載しています。そこで本号には、2001年度に学位を取得された前鶴政和氏、唐成氏、呉俊賢氏の論文要旨を掲載させていただきます。

前鶴氏は「国際寡占競争下における貿易・産業政策に関する理論的研究」により、唐氏は「中国の家計貯蓄に関する実証研究」により、また呉氏は「台湾の情報電子産業に関する実証分析」の学位論文により、2002年3月25日に筑波大学大学院社会科学研究所経済学専攻を修了し学位を取得されました。

学位取得後、前鶴氏は、2002年4月から大阪経済法科大学経済学部にて専任講師として赴任され、現在、産業組織論を担当されています。唐氏は、同年4月より筑波大学社会科学系特別研究員になられ、2003年4月からは慶應義塾大学総合政策学部訪問講師として赴任される予定です。また呉氏は台湾に帰国され、当地にて台湾経済の実証研究を進めておられます。

前鶴氏、唐氏、呉氏の御研究のさらなる発展を期待いたします。また、来年度以降も、多くの方が、筑波大学大学院社会科学研究所あるいは人文社会科学研究所にて優れた学位論文を提出され、博士（経済学）の学位を取得されることを願っております。

2003年1月 平 沢 照 雄